

施設長	事務長	課長	係長	係長		

議事録

1. 会議名

令和7年度 第2回地域連携推進会議

2. 日時

令和8年1月19日(月) 13時30分～15時20分

3. 場所

いちよう園 ふれあい会館1F

4. 出席者

- 町福祉課係長 松本 氏
- 大坪自治会長 福本 氏
- 栄町自治会長 山本 氏
- 保護者代表 福本 氏
- 利用者代表 横田 氏
- 施設長

- 事務局長
- 課長
- 山根 係長
- 岡野 係長

※敬称略

5. 会議目的

障害者支援施設「いちよう園」およびグループホームの運営状況について報告を行い、**運営の透明性の確保、サービスの質の向上、ならびに地域との連携強化**を目的として、現状共有および意見交換を行う。

6. 議題および報告内容

議題 1 グループホームの取り組みについて

事務局より、グループホームにおける支援状況について報告があった。

- **運営状況**
 - 男性 4 名が生活する「たんぽぽ栄町」
 - 女性が生活する「たんぽぽ中町」
の 2 か所を運営している。
 - **支援内容**
 - 食事準備、掃除、洗濯等の日常生活支援
 - 金銭管理および健康管理に関する助言・支援
 - **地域交流の状況**
 - 神社および町内清掃活動への参加
 - 小学生ソフトボールチームのコーチ活動
など、地域住民との継続的な交流を行っている。
-

議題 2 いちよう園における事業および行事報告

課長、岡野係長より、施設事業および行事について報告があった。

- **提供サービス**
 - 生活介護(利用定員 68 名)
 - 施設入所支援
 - 就労継続支援 B 型
 - 短期入所 等
 - **主な活動内容**
 - 就労支援:洗濯作業、役場・小学校の清掃、農作業(ポットへの土入れ等)
 - 季節行事:農業祭、いちよう園祭
 - 外出・余暇支援:味覚狩り、水族館見学、カラオケ等
 - **健康・安全管理**
 - 喫茶タイムを実施し、町内店舗または園内でのリフレッシュの機会を設けている。
-

議題 3 運営体制および委員会活動について

課長より、運営体制および各委員会の活動について報告があった。

- **委員会体制**
 - 計 11 の委員会を設置し、専門的視点から運営の適正化を図っている。
 - **虐待防止の取り組み**
 - 弁護士、家族会、利用者代表等の外部委員を含めた委員会を年 1~2 回開催
 - 全職員対象の研修および小グループでのワークショップを実施
 - **リスクマネジメント**
 - 利用者の高齢化・重度化に伴う事故、怪我、誤薬防止のため、ヒヤリハット報告の分析および対策の検証を行っている。
 - **感染症・安全衛生対策**
 - 12 月のインフルエンザ流行時の対応状況について報告
 - 外部医師を交えた安全衛生委員会を月 1 回開催している。
-

7. 決定事項・確認事項

1. 施設およびグループホームの現地見学を実施することを確認した。
 2. 見学終了後、意見交換会を実施することとした。
-

8. 今後の予定(ネクストアクション)

(1) 施設・グループホーム見学

- 所要時間:約 1 時間
- 支援現場および設備の運営状況を実地で確認する。

(2) 意見交換会

- 見学後、会議室にて実施
 - 今後の支援および施設運営に関する意見・提言を行う。
-

9. 役割分担

担当者	内容
-----	----

事務局長	全体進行管理、見学および意見交換会の司会
------	----------------------

施設長	地域連携の基本方針に基づく総括
-----	-----------------

課長・係長	見学時の現場説明、質疑対応
-------	---------------

参加委員	見学を通じた現状把握、意見交換会での助言
------	----------------------

地域連携推進会議 No.2

1. 議題

1. 金銭管理体制の現状確認
 2. グループホームの運営状況について
 3. 地域連携の現状と今後の方向性
 4. 利用者の地域参加・自立支援の取り組み
 5. 今後の対応(ネクストアクション)について
-

2. 議事内容

(1)金銭管理体制について

- 過去に他施設で発生した不祥事を教訓に、**通帳と印鑑の分離管理**を徹底している。
- 管理責任者は、通帳を事務局長、印鑑を主任・施設長がそれぞれ管理している。
- キャッシュカードは作成せず、現金管理を基本としている。
- 利用者は小遣い帳を記入し、職員が定期的に現金と照合する仕組みを導入しており、現時点で大きな問題は発生していない。

【確認事項】

- ・現行の管理体制を今後も継続することで一致した。
-

(2)グループホームの運営状況について

- 現在運営している2つのグループホームはいずれも満室であり、**入居待機者がいる状況**である。
- 専属の世話人は3名体制で、平均年齢は約70歳。
- 夜間については、本園(一期園)との**バックアップ体制**を構築しており、緊急時の対応が可能な体制となっている。

【課題】

- ・世話人の高齢化を踏まえた体制維持
 - ・待機者への対応方法の検討
-

(3) 地域連携の現状と課題

- 佐用町では、過去 20 年間で児童数が約 1,800 人から約 800 人へと大幅に減少しており、地域全体の担い手不足が深刻化している。
 - 今後は、行政、民間事業所、社会福祉協議会がより一層連携する必要があるとの認識が共有された。
 - 来年度以降、自立支援協議会において、**障害児支援**および**就労支援(作業所間連携)**をテーマとした部会の設置を検討する。
-

(4) 利用者の地域参加・自立支援について

- 地域の祭りへの参加や、18 年間継続している「鯛焼き販売」などの活動を通じ、利用者が地域の一員として生活できる環境づくりを継続している。
 - 一方で、利用者や支援者の高齢化、体調面の問題から、活動の継続が困難になりつつあるケースもあり、**本人の意向を尊重した柔軟な対応**が必要であることが確認された。
-

3. 今後の対応(ネクストアクション)

1. **地域連携推進会議の開催**
 - 年 2 回開催を継続
 - 次回開催時期: 来年 6 月および 12 月を目途に調整する
 2. **自立支援協議会における部会設置の検討**
 - 障害児支援部会
 - 就労支援(作業所間連携)部会
 3. **地域への周知・理解促進**
 - グループホームの活動内容を地域住民へ継続的に発信
 - 協力関係の強化を図る
-

4. 役割分担・対応事項(確認)

施設長・事務局

- 金銭管理体制の継続的な厳格運用
- 次年度会議(6 月・12 月)の調整および案内送付
- 満室状況を踏まえた入居調整の検討(本園 2 階活用等)

現場職員(主任・世話人)

- 金銭管理を通じた利用者の自立支援の継続
- 夜間緊急時の連絡体制の再確認
- 鯛焼き販売等の活動継続について本人意向を尊重した調整

地域・自治会関係者

- 地域連携推進会議の内容を次期役員へ引き継ぐ
- 行政・社会福祉協議会へ地域福祉強化の必要性を提言